

大学生男女の身体意識と着装行動に関する研究

鮎 田 崎 子・石 川 祥 代

(被服学研究室)

(平成12年6月1日受理)

A Study of Body Awareness and How to Clothe Oneself among Male and Female University Students

Sakiko FUNADA and Sachiyo ISHIKAWA

I 緒 論

私たちは衣服を着て生活している。世の中に多種多様な衣服があるが、その中から私たちは、自分の感覚に合うものを選択し、自分なりの着方でそれを着こなしている。同じ衣服でも、着用する人によってその衣服のイメージが変わったり、すてきに見えた衣服が実際に着てみると映えなかったりするように、衣服は着装する身体があって初めて意味をなす。

哲学者の鷲田清一¹⁾は、「自分の身体というものは、自分で見える機会が少なく、情報量の少ない、ぼんやりとした〈像〉であり、その〈像〉は簡単に揺らいでしまう。そのもろい身体イメージを補強するために、私たちは日常生活の中でいろいろな技法を編みだしてきた。その技法のひとつが衣服である。ひとは衣服を着たときの摩擦により、自分のぼんやりとした身体のイメージを、〈わたし〉の輪郭を、感覚的に補強するのである」と身体と衣服の関わりを述べている。さらに、衣服は自らの〈像〉を感覚的に補強するだけでなく、他人への自分の〈像〉をもかたどってくれる。

人が衣服を着装する精神的欲求としては、不安や非力さを意識し、より魅力的なものに変身したいという欲求、自分を他から区別しようとする欲求、さらに性的魅力を表出するという欲求があると考えられる。千村典生²⁾は「原始社会において、性的人間が登場し、性的な‘身体意識’が始まることにより、やがて性の抑制(タブー)が生まれ(性的部分の隠蔽)、結果として性のイメージ表現(エロティシズム)として、服装が誕生した」と言う。つまり、衣服は、初め人間の性差を隠すものとして生まれたが、男性、女性それぞれの身体の美しさを活かす衣服を発展させた結果、むしろ性差を強調させることになった。このように人々は古代から、衣服で隠したり、強調したりすることによって身体の性的魅力、美しさを表出させてきた。

人々は美しさを追求するために、時として衣服の最も重要な「身体を保護する」という機能を脅かすこともあった。たとえば、ルイ王朝のヨーロッパにおいてコルセットが流行した。着用のねらいは、逆円錐形にボディを補正してウエストを細め、バストを下から締め上げて大きく見せることであった³⁾。しかしそれは、極端に身体を締めつけるために肺は異常に縮小し、消化器官は下垂してウエストだけでなく、足までが小枝のように変形し、歩行困難にしたばかりか命までも短くしたという⁴⁾。また、清朝末期まで中国において続いた纏足の習慣は、その小さい足とおぼつかない歩みが男性の目から見て美しいとされ、幼いうちから足を包帯でぐるぐるに巻き、時には石で骨を砕くなどして足の成長を止めるために、女性を一生その痛みで苦しめた⁵⁾。現在においては、それほど極端ではないが、足に負担をかけるヒールの高い靴や、身体のラインを美しくするために身体を締めつけるブラジャーやガードルなどが使われている。

身体の性的魅力、美しさを表現するために、人々は、布やジュエリーで肌に境目や切れ目を入れたり、衣服にひだやふくらみを入れることによって、身体の表面にざわめきを出した⁶⁾。例えば、鎖骨の美しさを強調するためにネックレスをつけたり、肌や脚の美しさを強調するためにスカートにスリットを入れたり、身体のラインを出すために衣服にダーツを入れる。このように、衣服は身体を隠したり、飾ったりすることによって性を分類し、それぞれの性の美しさを強調した。衣服文化は、この身体を隠しながらも身体を強調するという、一見矛盾したことの追及でもある。

日本の衣服は、近代まで和服が主流であった。和服は、シルエットが直線的であり、身体のラインを隠すものである。明治維新以降、欧米の文化が導入され、身軽で活動しやすい洋服は時代の要求と一致し、受け入れられた。現在では洋服が日常着として着用され、和服は行事などの限られた場にしか着用されていない。

洋服は元々欧米の文化であり、欧米人の身体の特徴をより美しく見せるように計算されて作られた。日本人は欧米のスタイルにあこがれ、自分をそのイメージに近づけるように、欧米人がデザインした洋服を真似した。日本人がその洋服を着るということは借り物の衣服を着るようなものであり、それは結果として、体型的な劣等感を増すことになった。例えば、容姿を表現するのに「日本人離れした」という誉め言葉があるが、そのことから、日本人は少なくとも、体型に劣等感を抱いている⁷⁾ように思われた。

しかし、それまでの外国からの受身的な洋服文化に変わって、1970年代から徐々に日本人のデザイナーが認められたように、日本人も、洋服を自分たちの文化として確立し始めた。人々のファッション観の移り変わりをみると、80年代は、流行をいち早く取り入れ、自分を際立たせ、アピールするという、ブランド志向や流行傾倒が強かった。90年代になると、ブランドを強調するのではなく、ブランドや流行を自分なりに部分的に取り入れながらも、さりげないおしゃれを追求するようになった。また、80年代はバストやヒップを強調したボディコン・ブームが出現した年代である。ボディコンシャスとは「身体を意識した」という意味で、身体の自然なラインを意識・認識し、その立体感をありのままに表現したスタイル⁸⁾と解釈されるものである。日本独特の衣服文化である和服は直線的な美しさを強調し、身体のラインを出さないに対して、このボディコンという、ヒップとウエストのラインを強調したものを積極的に取り入れるというのは、日本人にとって衝撃的なブームとなった。ボディコン・ブームは、日本人が衣服をより立体的なものとしてとらえる一つの大きなきっかけとなり、ファッションを衣服

だけのものとして意識するのではなく、「身体あつての服」ということを実感し始めるきっかけになった。それにより、衣服と身体のバランスがより意識されるようになり、服を着る身体への関心が高まっていくことになる。

最近の雑誌⁹⁾には、健康食品やエステ、化粧品などの、身体に関する商品が数多く掲載されている。また、より美しいプロポーションを求め、ダンススタジオやフィットネスクラブなどに通う人も、若い人を中心として見られる。これらのことにより、健康や身体を美しく保つことに関心を持つ人は多いと思われる。

女子学生を対象とした1987年の調査¹⁰⁾によると、女子学生が理想としている体型は全体にやや細く、背が高く、胴が短く、ヒップが上がっていて、顔が小さく、肌が白いことである。現在もこのような瘦身志向は強く、極端なダイエットに走り、拒食症や過食症になる人もいるほどである。厚生省の調査¹¹⁾では、過去40年以上にわたって、20歳の女性はやせつづけているというデータがでている。90年3月末の東レマーケティング企画部の調査¹²⁾内容によると、「50万円の服と、50万円のエステのフルコース、どちらを選びますか」の問いに対し、首都圏の10代～20代の女性50名の約7割が「エステ」と答えたという。これらのことから、人々のボディメイキングへの関心の強さが感じられる。

現代のファッションの傾向は、衣服やアクセサリーなどで身体を飾るだけではない。はじめは、つっぱり若者の悪趣味なファッションぐらいに思われていた¹³⁾茶髪やピアスなどを愛好する人が増えている。身体を加工し、変形することや、ダイエットやエステなどといった身体を作るということも、ファッションの要素として認識されるようになっている。

衣食住という言葉のように、人間にとって、衣服は、日々の暮らしと関わっており、現在では衣服が持つ意味や機能も多様化している。その中で、大学生男女が、自分の身体をどのように評価し、身体を通じて自分をどのように表現しているか、衣服とのかかわりはどうなのか等、多角的に分析して、若者の生活意識を多面的に探ることを意図した。

Ⅱ 研究方法

調査対象は、愛媛県松山市に居住する大学生（男子225名、女子225名、計450名）である。1999年7月上旬から10月下旬にかけて、質問紙法により調査した。

調査内容は、自分の体型・身体各部の満足度、身体各部の特徴、身体をつくるための習慣、身体への加工、服装に求めるイメージ、着装に関する内容である。

自分の身体各部の満足度については、全体のプロポーション、身長、体重、性別や身体各部分についての18項目、身体各部の特徴は、自分の身体をどのように認識しているかについて、プロポーションや身体各部に関する23項目、身体への習慣は、スポーツ、マッサージやダイエットなどの5項目、自分の身体への加工については、カラーリングやピアスなどの6項目と加工する理由、服装に求めるイメージについては、ソフト、清潔などの8項目、着装に関する23項目である。

結果は、単純集計、クロス集計、数量化Ⅱ類による分析を行い考察し、有意性を明確にするため検定を行った。

Ⅲ 結果及び考察

1. 回答者の属性

回答者の属性は表1となる。

所属学部は教育学部，工学部が多く，18～20歳が69%を占める。出身地は愛媛県内（58.9%），中国地方（19.6%）が多い。居住形態は自宅（36.9%），アパート・マンションでの一人暮らし（57.5%）である。所属サークルは文化系（23.1%），体育系（44.4%），音楽美術芸能系（4.4%）である。

2. 体型・身体各部に対する満足度

自分の体型に対する満足度を4段階で問い，男女別に示すと図1となる。体型に満足しているのは，男子13.8%，女子3%，やや満足しているのは，男子33.8%，女子11.6%である。満足群は，男子47.6%，女子14.6%となり，女子は体型に不満を感じている者が極めて多い。

さらに，身体各部18項目について，「満足している」から「満足していない」の4段階で回答を得て，各項目の評定に対し，4～1の評点を与えて資料とし，平均値，男女間の有意差，t検定結果を示したのが図2である。

身体各部の満足度が高い項目は，男子においては，性別，手，腕，背中，首，肩，肌，体重，女子は，性別，身長，首，髪，手，背中，肩である。一方，低い項目は，男子は，腹部，身長，髪，全体のプロポーション（比例・つりあい），大腿部，女子は，大腿部，脚，腹部，ヒップ，体重，全体のプロポーションである。

このことから，身体に対する満足度が高いのは，比較的脂肪のつきにくいところ，気づきにくいところ，骨格的な部分であり，満足度の低い部分は，全体のプロポーションと体幹の脂肪がつきやすく，太くなる部分である。特に下半身のヒップ，大腿部，脚の満足度が低く，身体の中でも気にしている部位といえる。男子は身長，髪に関する満足度は低いほうであるが，女

表1 回答者の属性

人数 (%)

区 分			合 計	男 子	女 子
			450(100.0)	225(100.0)	225(100.0)
学 部	教 育 学 部		289(64.2)	86(38.2)	203(90.2)
	工 学 学 部		96(21.3)	90(40.0)	6(2.7)
	法 文 学 部		42(9.3)	29(12.9)	13(5.8)
	農 学 学 部		14(3.1)	13(5.8)	1(0.4)
	理・医学部		9(2.0)	7(3.1)	2(0.9)
年 齢	18 歳		48(10.7)	20(8.9)	28(12.4)
	19 歳		164(36.4)	65(28.9)	99(44.0)
	20 歳		100(22.2)	44(19.6)	56(24.9)
	21 歳		79(17.6)	50(22.2)	29(12.9)
	22 歳		46(10.2)	33(14.7)	13(5.8)
	23 歳 以 上		13(2.9)	13(5.8)	0(0.0)
出 身 地	愛 媛 県		265(58.9)	111(49.3)	154(68.4)
	四 国 県 内		51(11.3)	32(14.2)	19(8.4)
	中 国 地 方		88(19.6)	48(21.3)	40(17.8)
	九 州 地 方		15(3.3)	12(5.3)	3(1.3)
	関 西 地 方		17(3.8)	12(5.3)	5(2.2)
	そ の 他		14(3.1)	10(4.4)	4(1.8)
居 住 形 態	自 宅		166(36.9)	57(25.3)	109(48.4)
	寮		13(2.9)	4(1.8)	9(4.0)
	ア パ ー ト		92(20.4)	64(28.4)	28(12.4)
	マ ン シ ョ ン		167(37.1)	91(40.4)	76(33.8)
	下 宿		12(2.7)	9(4.0)	3(1.3)
所 属 サ ー ク ル	文 化 系		104(23.1)	46(20.4)	58(25.8)
	体 育 系		200(44.4)	118(52.4)	82(36.4)
	音 楽 美 術 芸 能 系		20(4.4)	3(1.3)	17(7.6)
	そ の 他		32(7.1)	13(5.8)	19(8.4)
	な し		94(20.9)	45(20.0)	49(21.8)

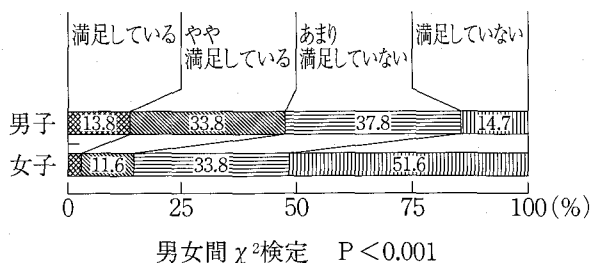


図1 自分の体型に対する満足度

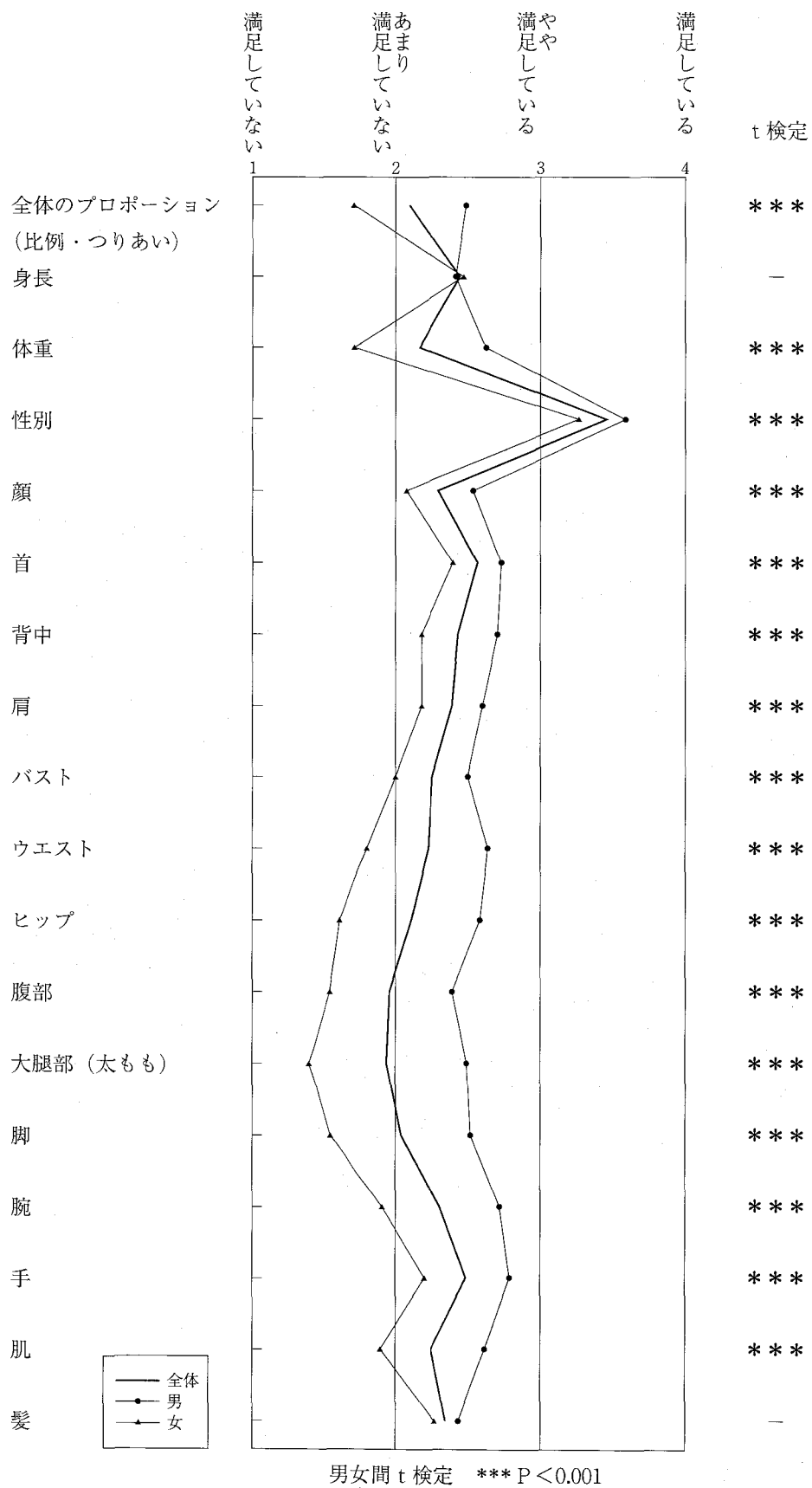


図2 身体各部の満足度 (全体・男・女)

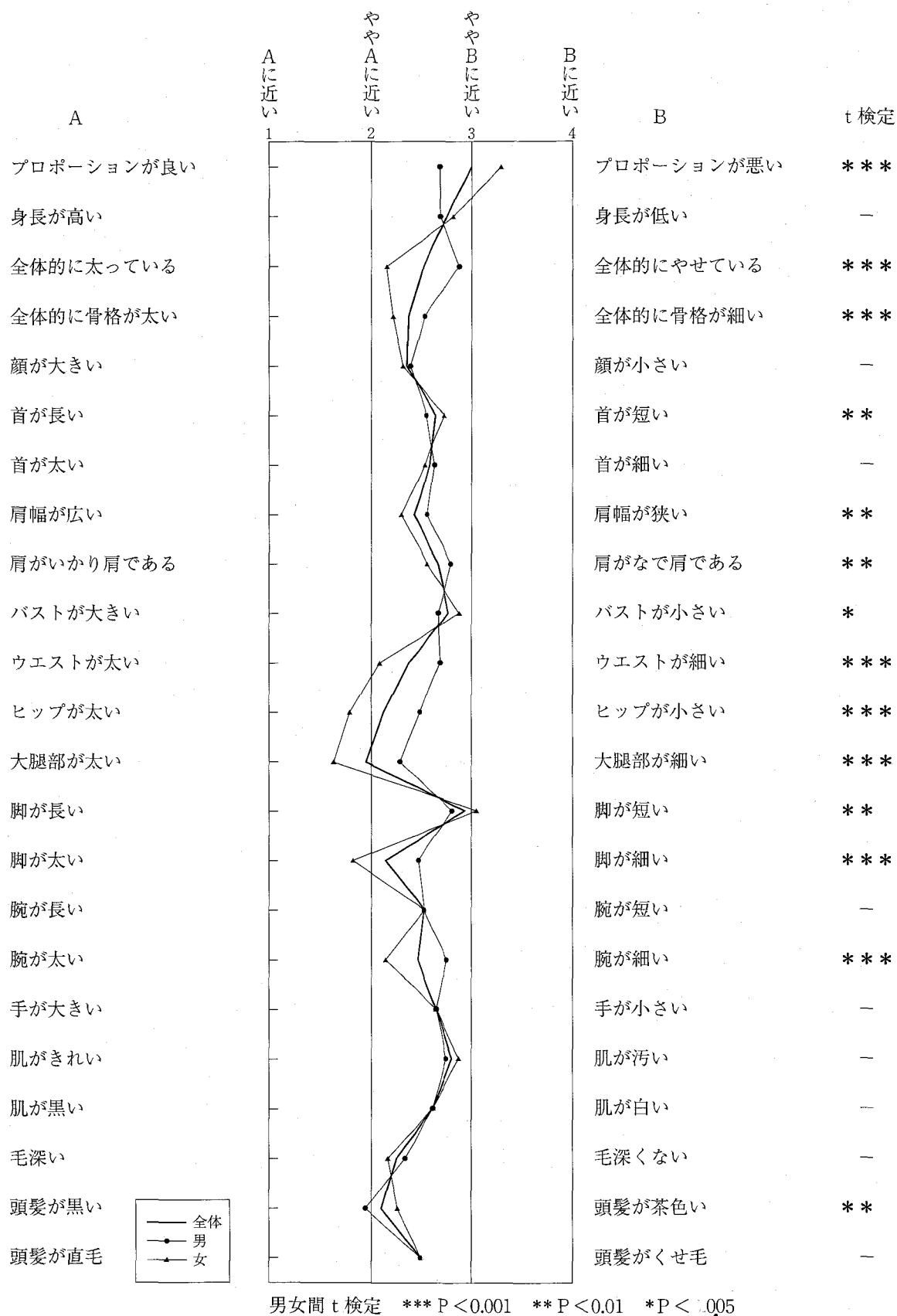


図3 身体各部の特徴 (全体・男・女)

子においては、逆に高いほうに入る。女子の体重に対する不満は強いが、男子の体重に対する満足度は比較的高い。

男女間で、0.1%水準で有意差が認められたのは、身長、髪を除く16項目で、全て男子の方が優位である。女子の方が自分の身体に対して不満箇所が多く、不満度は高い。しかし、性別に対する満足度は男女間に有意差はあるものの、平均値は、男子「3.59」、女子「3.26」を示しており、男子は男性、女子は女性という性に対して満足しているといえる。

3. 身体各部の特徴

身体各部の特徴をどのように意識しているかについて A・B 2 つの相反する特徴のどちらに近いかについて 4 段階尺度での評定結果をまとめたのが図 3 である。

自分の身体の特徴を、男子は、頭髮が黒い、大腿部が太い、毛深い、顔が大きい、全体的にやせている、脚が短い、腕が細い、肌が汚いと意識している。

女子は、大腿部が太い、ヒップが大きい、脚が太い、脚が短い、ウエストが太い、腕が太い、プロポーションが悪い、肌が汚い、バストが小さい、全体的に太っている、全体的に骨格が太いと意識している。

このことから、男子は、全体的にやせているが、顔が大きく、脚が太く、毛深く、肌が汚い、女子は、下半身、特にヒップ、大腿部、脚について太く、短いと認識し、身長が低く、プロポーションが悪いと感じている。

近年、日本人の体型は長身化、脚長化、痩身化していると言われている¹⁴⁾が、個人ではそう認識していないようである。

男女間の有意差が認められた14項目のうち、0.1%水準で差があるのは、プロポーションが良い、全体的に太っている、全体的に骨格が太い、ウエストが太い、ヒップが大きい、大腿部が太い、脚が太い、腕が太いの項目である。

男子は女子より、プロポーションが良く、全体的にやせていると評価し、女子は、男子より、プロポーションが悪く、全体的に太っていると感じている。

体型の満足度と「全体的に太っているーやせている」間には、男子は有意差が認められないが、女子は0.1%水準で有意差が認められた。女子は全体的に太っているという意識が体型の不満足度を高めている。

4. 「体型の満足度」に関わる身体各部の満足と特徴

自分の体型の満足度に身体各部の満足感と身体各部の特徴意識が、どのような強さと順序で作用しているかを明らかにするため、体型に満足している（やや満足しているを含む）群と満足していない（あまり満足していないを含む）群を外基準とし、身体各部の満足に関する18項目、身体各部の特徴に関する23項目を説明変数として、男女別に数量化Ⅱ類による分析を行った。偏相関係数0.1以上を示すものを深く関わる要因として取り上げた（表2、3）。

自分の体型満足度に関与している身体各部の満足感は、男子は、体重、全体のプロポーション、肩、大腿部、性別、顔、ウエスト、ヒップの順序で、女子は、全体のプロポーション、脚、背中、顔、髪、手の順である。男子の性別、ウエスト、女子の背中については、満足していない意識と、他は満足している意識と関わっている。

全体のプロポーション、顔に満足している意識は男女に共通し、さらに男子は体幹部の満足

表2 「自分の体型に満足している」と身体各部の満足度との関係
—数量化Ⅱ類分析結果—

男 子

項 目	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
体 重	○ ×	0.364 -0.401	0.274
全体のプロ ポーション	○ ×	0.368 -0.392	0.257
肩	○ ×	0.236 -0.295	0.168
大 腿 部	○ ×	0.278 -0.243	0.163
性 別	○ ×	-0.042 0.525	0.134
顔	○ ×	0.169 -0.180	0.127
ウ エ ス ト	○ ×	-0.158 0.198	0.111
ヒ ッ プ	○ ×	0.172 -0.170	0.110
身 長	○ ×	0.108 -0.093	0.085
背 中	○ ×	-0.100 0.161	0.083
バ ス ト	○ ×	-0.129 0.109	0.082
腕	○ ×	0.087 -0.126	0.073
首	○ ×	0.060 -0.103	0.055
腹 部	○ ×	-0.093 0.069	0.054
脚	○ ×	-0.062 0.061	0.041
手	○ ×	0.048 -0.040	0.035
肌	○ ×	0.039 -0.062	0.035
髪	○ ×	-0.029 0.036	0.024
相 関 比	0.4891		

カテゴリー：○満足している ×満足していない

女 子

項 目	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
全体のプロ ポーション	○ ×	1.284 -0.294	0.492
脚	○ ×	0.717 -0.081	0.237
背 中	○ ×	-0.207 0.116	0.151
顔	○ ×	0.216 -0.099	0.150
髪	○ ×	0.115 -0.087	0.121
手	○ ×	0.129 -0.092	0.112
ウ エ ス ト	○ ×	0.182 -0.040	0.086
大 腿 部	○ ×	0.287 -0.025	0.084
肌	○ ×	0.107 -0.038	0.073
腹 部	○ ×	0.157 -0.018	0.055
性 別	○ ×	-0.017 0.079	0.046
肩	○ ×	0.046 -0.029	0.039
腕	○ ×	-0.056 0.020	0.034
身 長	○ ×	-0.027 0.028	0.034
バ ス ト	○ ×	-0.038 0.017	0.030
体 重	○ ×	0.036 -0.010	0.015
首	○ ×	0.008 -0.009	0.009
ヒ ッ プ	○ ×	0.010 -0.001	0.003
相 関 比	0.640		

カテゴリー：○満足している ×満足していない

感が、女子は脚、手、髪など細部の満足感との関わりが深いところに特徴が表れている。

自分の体型満足度に関与している身体各部の特徴については、男子は、プロポーションが良い、腕が太い、脚が細い、肌がきれい、肌が黒い、身長が高い、女子は、プロポーションが良い、肌が白い、肌がきれい、腕が長い、脚が細い、身長が低い、である。

表3 「自分の体型に満足している」と身体各部の特徴との関係
—数量化Ⅱ類分析結果—

男 子

項 目 (A-B)	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
プロポーションが 良い-悪い	A	0.727	0.261
	B	-0.476	
腕 が 太い-細い	A	0.504	0.160
	B	-0.232	
脚 が 太い-細い	A	-0.359	0.137
	B	0.375	
肌 が きれい-汚い	A	0.339	0.127
	B	-0.169	
肌 が 黒い-白い	A	0.256	0.117
	B	-0.180	
身 長 が 高い-低い	A	0.312	0.112
	B	-0.220	
肩 が いかり肩-なで肩	A	-0.265	0.094
	B	0.135	
全 体 的 に 太っている-やせている	A	-0.310	0.091
	B	0.155	
毛 深 い - 毛 深 く な い	A	-0.144	0.088
	B	0.197	
相 関 比	0.247		

女 子

項 目 (A-B)	カテゴリー	カテゴリー ス コ ア	偏相関係数
プロポーションが 良い-悪い	A	1.467	0.414
	B	-0.252	
肌 が 黒い-白い	A	-0.219	0.169
	B	0.163	
肌 が きれい-汚い	A	0.220	0.137
	B	-0.106	
腕 が 長い-短い	A	0.180	0.134
	B	-0.169	
腕 が 太い-細い	A	-0.098	0.129
	B	0.392	
身 長 が 高い-低い	A	-0.174	0.109
	B	0.107	
脚 が 長い-短い	A	0.235	0.097
	B	-0.063	
顔 が 大きい-小さい	A	0.088	0.089
	B	-0.130	
肩 幅 が 広い-せまい	A	-0.098	0.077
	B	0.127	
相 関 比	0.493		

カテゴリー：A=Aに近い B=Bに近い

注 23項目中14項目は記載省略

男女ともにプロポーションや肌, 脚, 腕に関する特徴が深く関わり, 肌に関しては, 男子は肌が黒い, 女子は肌が白い, 身長に関しては, 男子は身長が高い, 女子は身長が低いとの関わりが認められた。

5. 身体をつくるための習慣

自分の身体をつくるために習慣としてしていることは(図4), 男子は, スポーツ(52.9%), 筋力トレーニング(35.1%)が多く, ダイエット(7.1%), マッサージ(4.9%), 何もしていない(32.9%)となる。

女子は, スポーツ(30.2%), ダイエット(23.6%), 筋力トレーニング(15.1%), マッサージ(13.8%), 何もしていない(42.2%)である。

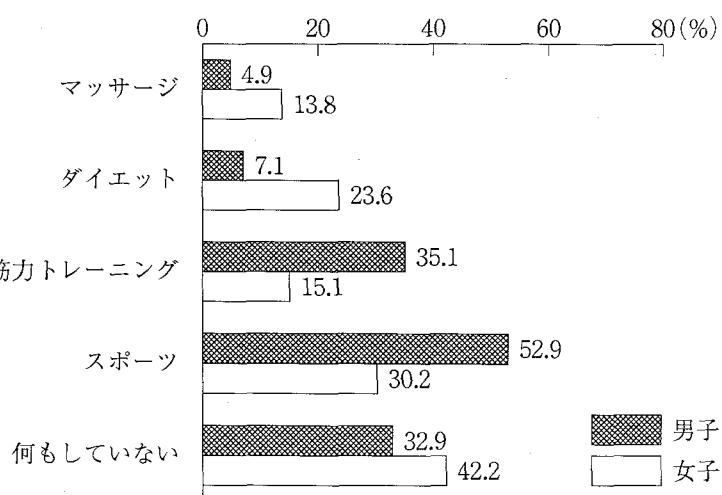


図4 身体をつくるための習慣

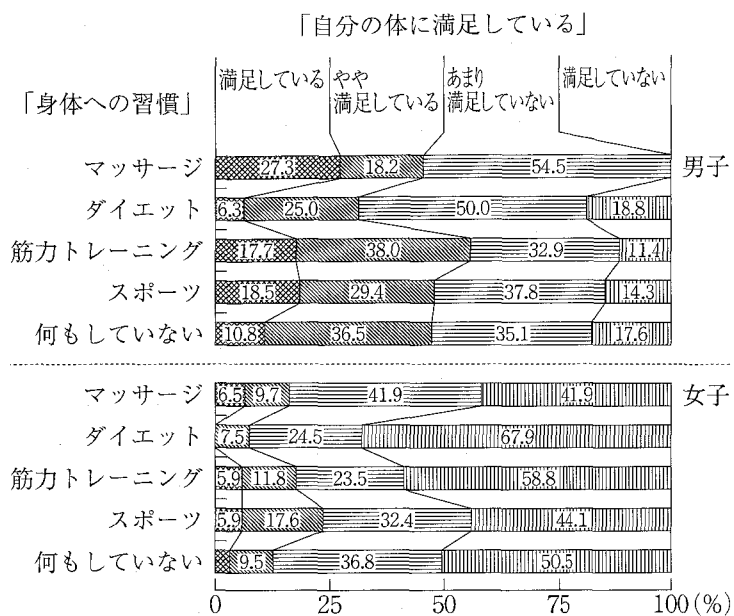


図5 「身体への習慣」と「体型満足度」とのクロス集計結果 (男女別)

満足度は高い。運動をすることにより、肉体面の向上だけでなく、精神面での安定が高まると考えられる。

6. 身体への加工と加工する理由

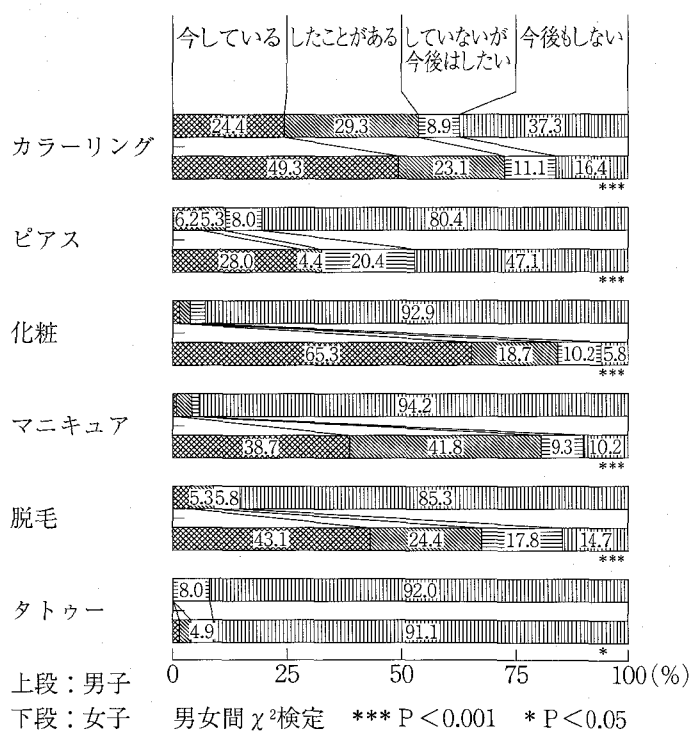


図6 身体への加工 (男女別)

男子は運動によって身体を作るという習慣を持つ人が多いのに対して、女子は運動をする人はやや少なく、ダイエットによる食生活や、マッサージで身体を美しくしようとする傾向が見られる。

また、身体をつくるために習慣としてしていることと体型の満足度との関わりをみるため、男女別にクロス集計してみると図5となる。男女ともに、ダイエットをしている人は、自分の体型に不満を持っている人が多く、筋力トレーニングやスポーツなどの運動をしている人は、何もしていない人と比較して、

本来の自分の身体に加工して装飾していることについて、「今している」「したことがある」「していないが今後はしたい」「今後もしない」の区分で問うた (図6)。今している、したことがあるのは、男子は、カラーリング (53.7%)、ピアス (11.5%)、化粧 (3.6%)、マニキュア (4.0%)、脱毛 (8.9%)、タトゥー (0%) である。女子はカラーリング (72.4%)、ピアス (32.4%)、化粧 (84%)、マニキュア (80.5%)、脱毛 (67.5%)、タトゥー (4.0%) である。

このことから、カラーリングは学生にとって、身近なものになっているといえる。ピアスは男子11.5%、女子32.4%が経験しており、日常的に身体に直接アクセサリをする人

が増えている。男子の中にも、ピアスを付けることに対して「かっこいい」と感じる人もいて、抵抗がなくなっていることがわかる。男子の、化粧、マニキュアは学園祭などでの遊び・イベント的な理由ですることが多いが、脱毛に関しては、身体特徴の中で「毛深い」をあげた人が多く、表3からみると、毛深いより、毛深くないほうが体型満足との関係が強いように、男子も、きれいになりたい、清潔感を出したいと脱毛する人がいる。タトゥーに関してはまだ、認識が低い。少数の経験者はほとんどが「今している」より「したことがある」であり、シールタトゥーと考えられる。「していないが今後はしたい」が、男子8.0%、女子4.9%いることから、今後はピアスのように、少しずつ増えていく可能性もある。

男女間の有意差はすべての項目に認められ、女子が全て優位であり、女子のほうが身体を加工して装飾することに関心が高い。男子においても関心が高まっているように感じられる。

身体への加工に関する全項目について、今までに経験したことのある人の理由は(図7)、男子において、イメージを変えたい(55.0%)、若いときにしかできないから(45.0%)、ファッションを楽しみたい(33.6%)、かっこいい(32.8%)が多い。

女子においては、きれいになりたい(62.4%)、かわいい(47.7%)、ファッションを楽しみたい(46.8%)、イメージを変えたい(43.1%)、若いときにしかできないから(32.6%)が多い。

また、今までに何もしたことのない人の理由としては(図8)、男子は、いいと思わない(64.4%)、今のままがいい(36.0%)、めんどうだ(36.0%)、お金がかかる(26.2%)、痛そ

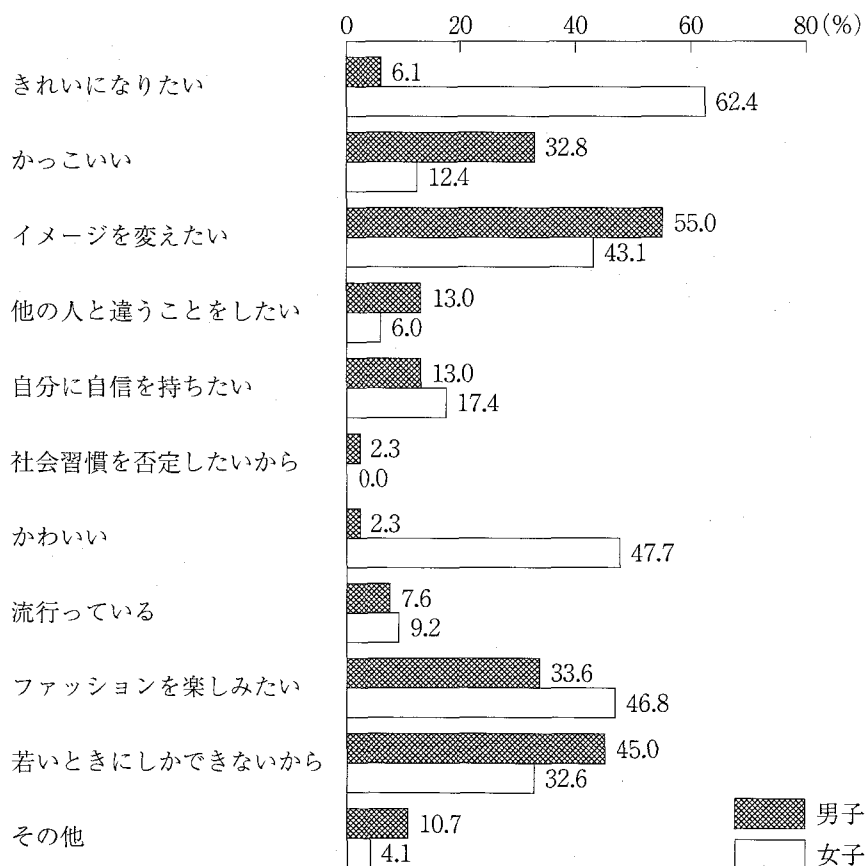


図7 身体への加工「今している・したことがある」の理由

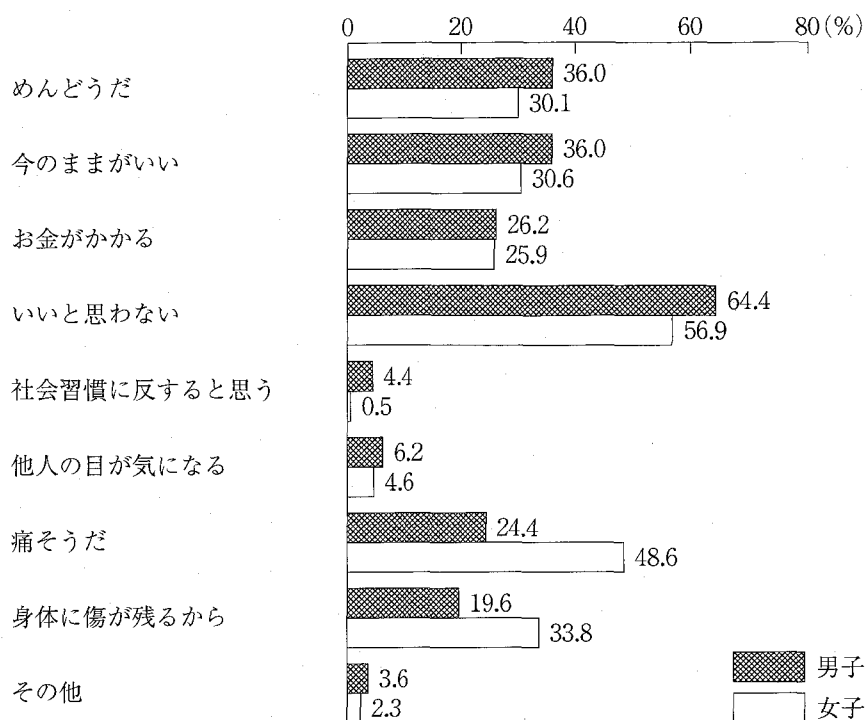


図8 身体への加工「したことがない」の理由

うだ (24.4%) と多い。女子は、いいと思わない (56.9%), 痛そうだ (48.6%), 身体に傷が残る (33.8%), 今のままだいい (30.6%), めんどうだ (30.1%), お金がかかる (25.9%) と多い。

このことから、自分の外見を変えることによって、まわりの人に与えるイメージを変えたり、前の自分よりも外見を良くして自分に自信を持ちたい、一番自由なことができる大学生という時期にやってみたいという人が多いと言える。カラーリングやピアスなどをして本来ある身体を変えることに抵抗がなくなっている。身体への加工と体型満足度との間には有意差は認められなかった。体型に不満があるから身体に加工するのではない。

一方、今まで何もしなかったのは、社会習慣に反する、他人の目が気になるからではない。現代の若者は身体への加工に対して、人の目を気にするというよりも、自分の価値観、好みで行っている。また、身体を傷つけ、装飾をすることに対して抵抗がない人が増えている一方、親からもらった体を傷つけるのには抵抗を感じるという人も少数ながらいる。

7. 服装に求めるイメージ

自分が装う服装にどのようなイメージを求めているのかについて A・B 二つの相反したイメージのどちらに近いかの 4 段階尺度で問い、男女別に示したのが図 9 である。男子はソフトで、清潔、シンプル、男性的、一般的、男の子っぽく、流行でないイメージを服装に求めている。女子は、ソフトで、清潔、シンプル、中性的、一般的、女の子っぽいイメージを求めている。男女ともに、ソフトで清潔、シンプルな服装を好む意識が強い。男女間の有意差は清潔、華やか、男・女性的、流行の項目に認められた。

このことから、男女ともに、清潔で、ソフトなイメージの、あきのこないシンプルな服装を

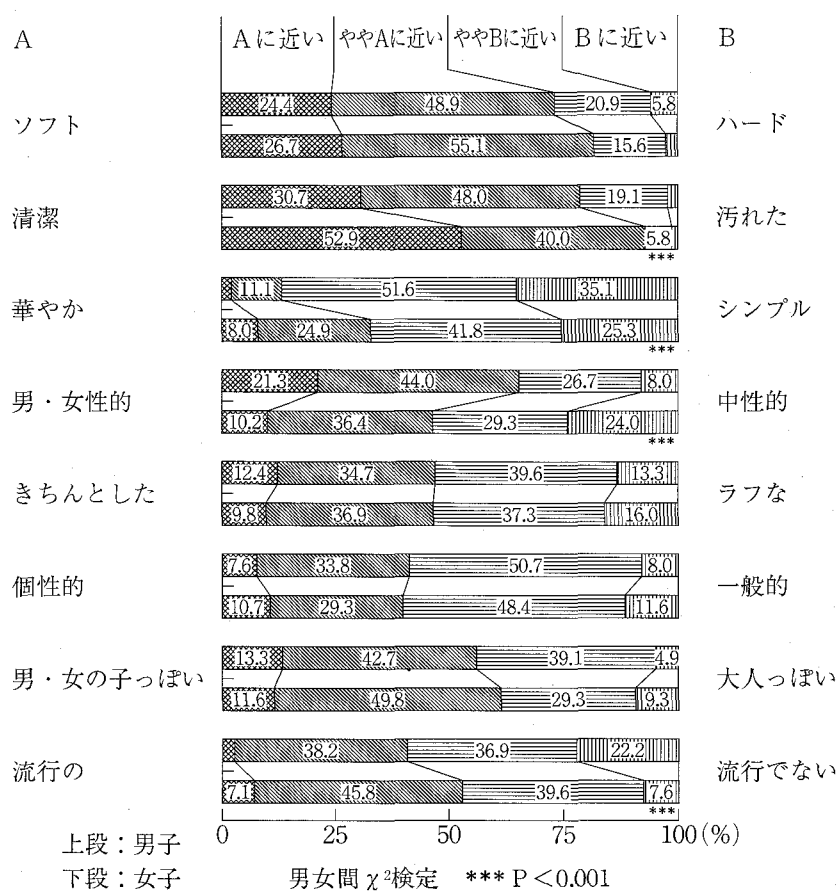


図9 服装に求めるイメージ (男女別)

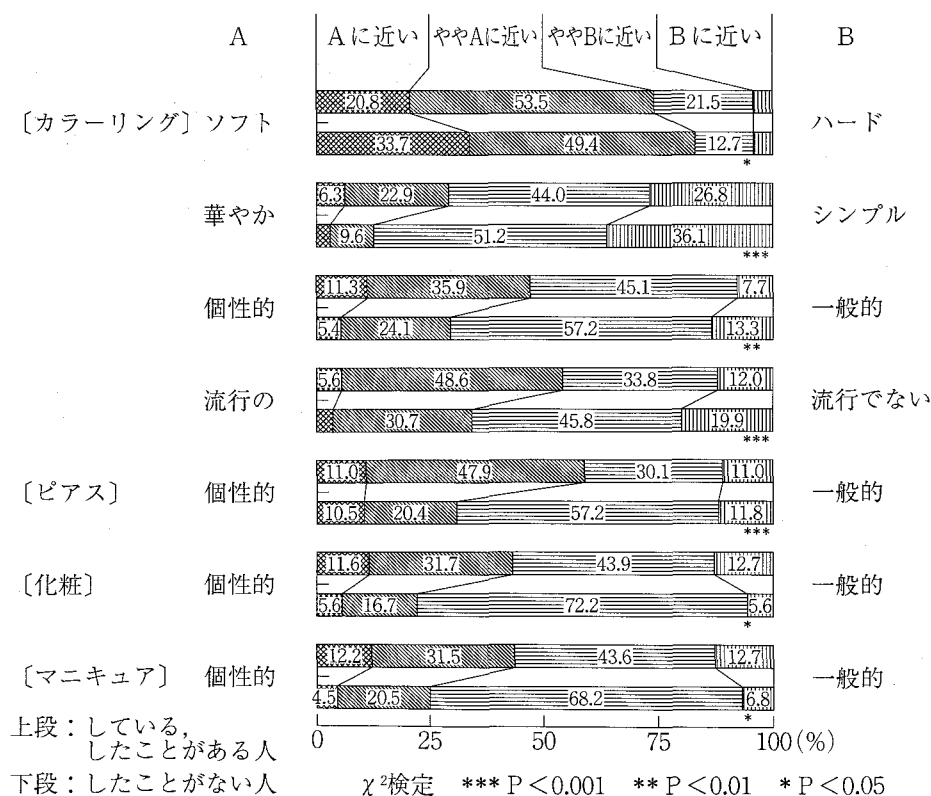


図10 身体への加工と服装に求めるイメージの関係

好んでいることがわかる。男子は、男らしい服装を好む人が多いのに対して、女子は女性的な服装を好む人もいる一方で、ボーイッシュな中性的な服装を好む人が53.3%いる。また、女子は男子と比較して、服装に華やかさや流行を取り入れる人も多い。

8. 身体への加工と服装に求めるイメージとの関わり

身体に加工している人と、していない人との服装に求めるイメージとの関わりについて検討する。身体への加工について、カラーリングは男女とも経験者が多いので全員を対象に、ピアス・化粧・マニキュア・脱毛の経験者は女子に偏っているので、女子のみについて、タトゥーについては、経験者が少ないことから省略し、各々のクロス集計を行い、有意差の認められたもののみ示した（図10）。

「ソフトーハード」に関しては、すべての項目（カラーリング、ピアス、化粧、マニキュア、脱毛）で多くの人が「ソフト」と評価しているが、カラーリング経験者は、未経験者と比較して、「ハード」を選択している人が多い。

「華やかーシンプル」に関しては、すべての項目で「シンプル」を選んだ人が多いが、カラーリング経験者は、未経験者と比べ、「華やか」が多い。

「個性的ー一般的」は、すべての項目で、「一般的」を選んだ人が多いが、特に、カラーリング・ピアス経験者は、「個性的」も多い。化粧・マニキュアについても、したことがある人の方が個性的である。

「流行のー流行でない」は、すべての項目において、したことがある人はやや「流行の」、したことがない人は「流行でない」に近い。カラーリング経験者は流行に関心が強い。

このことより、カラーリング経験者は未経験者と比べ、ハードで、華やか、個性的で流行の服装を好み、ピアス・化粧・マニキュアを経験している女子は、未経験者と比べ、個性的な服装を好むことが認められた。

9. 身体意識と着装行動の関わり

身体意識と着装行動との関わりをみるために、自分の「体型に満足している」と着装に関する23項目、「衣服を着ることは楽しい」と身体各部の満足感・特徴項目のクロス集計を行い、有意差の認められた項目を示した（表4）。着装に関する項目は、着装の楽しさ、機能性、実用性、社会性、ファッション性、流行性、自己表現、自己演出、他人意識、欠点のカバー性等の内容である。

体型に満足している人は男子において、「流行を取り入れるようにしている」「いつも男らしい服装を心がけている」「ファッションの情報を取り入れている」と関わりが認められ、女子は、「体の線がはっきり出るタイトな服装をするのが好き」「服装によって自分の魅力を高めるようにしている」との関わりが認められ、男女とも、体型に満足していない人は、「衣服で体型の欠点をカバーしている」のである。

衣服を装うことに楽しさを感じている男子は、「顔・ウエスト・ヒップに満足し、プロポーションが良く、全体的にやせていて、バストが小さい」との関わりが、女子は「顔に満足し、プロポーションが良く、肌が汚い」意識との関わりが認められた。

また、体型満足感と衣生活満足感の関係をクロス集計からみると（図11）、男女とも、体型満足度が高いほど、衣生活満足感が高い結果となり、身体意識が衣生活意識にも影響を与えて

表4 身体意識と着装行動との関係 (χ^2 検定)

項 目 (A-B)	項 目 (A-B)	男 子	女 子
体型に 満足している－満足していない	流行を取り入れるようにしている ファッション情報をよく取り入れている いつも男・女らしい服装を心掛けている 体の線が出るタイトな服装をするのが好き 服装によって自分の魅力を高めるようにしている 衣服で体型の欠点をカバーしている	*** * *	*** *
衣服を着ることは楽しい	顔に満足している ウエストに満足している ヒップに満足している	** * *	**
	プロポーションがよい－悪い 全体に太っている－やせている バストが大きい－小さい 肌がきれい－汚い	*** －* －* －*	*** *** －**
体型に満足している	衣生活に満足している	***	***

－は B 内容群の優位を示す

χ^2 検定 *** $P < 0.001$ ** $P < 0.01$ * $P < 0.05$

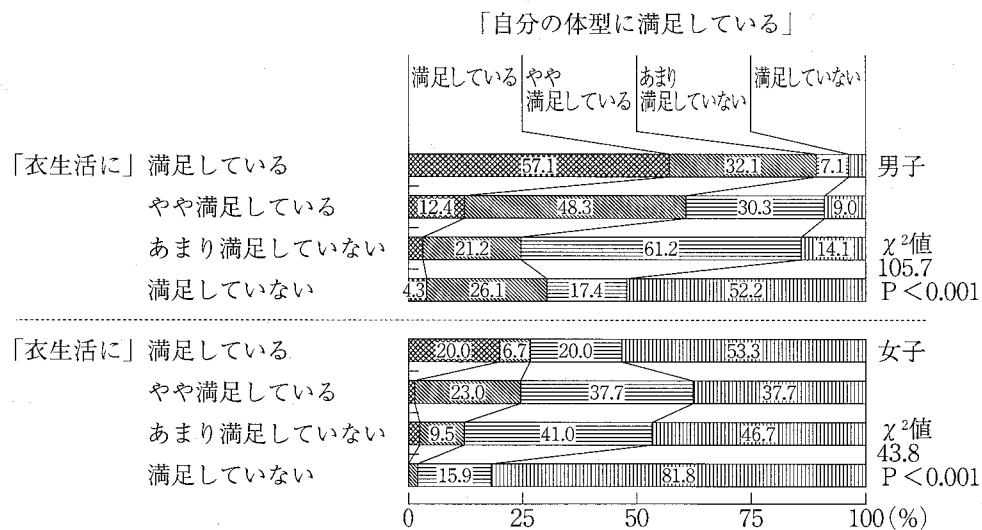


図11 体型満足度と衣生活満足度のクロス集計結果（男女別）

いることが明らかとなった。

身体意識と着装行動の関係は、男子は、体型に満足している人の方が着装に対して積極的である。女子は本来、着装意識は高く、ファッションを楽しみ、おしゃれを楽しみたいとする意識は男子より強い¹⁵⁾ はずである。服装が多様化し、流行の、肌の露出の高い服装などに触れることにより、身体を意識して、身体不満が高まる。ファッションと自分の外見を意識しすぎて、身体への不満を高めてしまい、そのため、女子の身体満足度と着装行動の関係に身体不満意識が強く作用していると考えられる。

Ⅳ 要約・結論

大学生の身体意識と着装行動の関係を明らかにするため、男女450人を対象に調査を行った。結果は次のとおりである。

1. 身体各部のうち、男子は、手、腕、背中、首、肩、肌、体重の満足度が高く、全体のプロポーション、腹部、大腿部、身長、髪に対する満足度は低い。女子は、身長、首、髪、手、背中、肩の満足度が高く、全体のプロポーション、大腿部、脚、腹部、ヒップ、体重など脂肪の付きやすいところ、特に下半身の満足度が低い。女子のほうが自分の体型、身体各部の不満が多く、強い。男女ともに、性別に関する満足度は高い。

2. 男子は、全体的にやせていて、顔が大きく、脚が太く、身長が低く、毛深く、肌が汚いと認識し、女子は、全体・各部ともに太っていて、プロポーションが悪いと感じている。日本人体型は長身化、脚長化、瘦身化が言われているが、個人はそう認識していない。

3. 体型の満足度に関与している身体各部は、男子は体重、プロポーション、肩、大腿部、顔、ウエスト、ヒップ、女子はプロポーション、脚、背中、顔、髪、手であり、特徴については、プロポーションの良さ、脚や腕の長さ、太さ、肌の状態、身長の高さと深く関わっている。肌に関しては、男子は黒い、女子は白い、身長に関しては、男子は身長が高い、女子は身長が低いとの意識が深く関わっている。男女ともに、体型の満足度によって、性別の満足度は左右されない。

4. 男子は運動によって身体をつくるという習慣を持つ人が多いのに対して、女子は運動をする人はやや少なく、ダイエットによる食生活やマッサージで身体を美しくしようとする人が見られる。ダイエットをしている人は、自分の身体に不満を持つ人が多いのに対し、スポーツや筋力トレーニング等の運動をしている人は、何もしていない人と比べて、体型の満足度は高い。

5. カラーリングは男子の53.7%、女子の72.4%が経験しており、学生にとって身近なものとなっている。ピアスは、男子の11.5%、女子の32.4%が経験しており、身体加工による装飾は増えている。毛深いと不満を感じている男子が多く、男子の中にも脱毛をする人がおり、男子の清潔志向は強まっている。タトゥーをしている人はほとんどいなかったが、興味を持つ人は見られ、今後は少しずつ増えていく可能性がある。女子の方が身体を加工して装飾することに対して関心が高く、男子においても意識が高まっている。

6. 身体に加工する理由は、自分の外見を変えることによって、まわりの人に与えるイメージを変え、外見を良くして自分に自信を持ちたい、自由なことができる大学生の時期にやってみたいということである。カラーリングやピアスなどをして、本来ある身体を変えることに抵抗がなくなってきたおり、身体装飾に対して、人目を気にせず、自分の価値観、好みを追求している。

7. 服装に求めるイメージは男女ともに、清潔で、柔らかい、あきのこないシンプルな服装である。男子は、男らしい服装を好む人が多いのに対して、女子は女性的な服装を好む人もいる一方で、ボーイッシュな中性的な服装を好む人も多い。女子の服装は男子と比較して、華やかで、流行を取り入れる人が多い。

8. カラーリング経験者は、未経験者と比較して、ハードで、華やか、個性的、流行の服装を好む。女子のピアス・化粧・マニキュアの経験者は、未経験者と比較して個性的な服装を好

む。

9. 体型に満足している男子は、流行やファッションの情報を取り入れ、新しいファッションに挑戦し、男らしい服装を好む。体型に満足している女子は、体のラインがはっきり出る服を好み、服装によって自分の魅力を高めようとしている。男女ともに、体型に満足していない人は、衣服によって気になる部分をカバーしている。プロポーションの良さや顔に対する満足意識が着装の楽しさを高める。体型満足感と衣生活満足感に関連がある。

以上のように、身体意識と着装行動との特徴と関連、男女の共通性や差異をとらえることができた。

身体各部の形態は性により、年齢により変化するものであり、青年期の体格・体型¹⁶⁾は、体幹部において、男子は女子に比べて、身長が高く、背肩幅が広く、ずん胴型、女子は胴がくびれて、上半身が小さく、ヒップ周辺が大きい等の性差を呈する。下半身の対身長比は、女子のほうが男子より高い。手指、足の大きさに関しても差異がある。しかし、これらは平均的な特徴であり、人体計測値から各々の体格・体型をみると、個人差が極めて大きく、一人ひとりとはかけがえのない身体である。身体は第1環境を形成する衣服だけでなく、日常生活で使っている「もの」との関わりや、身体に関する社会の価値観によって、身体意識が形成されていく。

大学生の自分の身体に対する意識は男女に差異があり、特に女子は身体への不満が高く、自分の身体を過度に意識し、自分が太っていると認識している人が多い。

そして、気になる身体を様々な方法で装飾し、自分の外見を変え、周囲に与えるイメージを変えたり、外見を良くして自分に自信を持ちたいとの思いがみえ、身体加工による装飾もファッションの一部としてとらえていることがわかった。

身体意識と着装行動の関わりは、プロポーションと顔に対する満足感が衣服を装うことの楽しさを高めるものとなっており、体型満足感も男女に差異を示しながら、着装行動を前向きにさせるものとなっている。すなわち、体型に満足している男子は、流行やファッション情報を積極的に取り入れ、男らしい服装を心掛ける着装行動をとり、体型に満足している女子は身体のラインがでる服を好み、服装によって自分の魅力を高める着装行動をとっているのである。男子は、身体と服装による社会との関わり方があらわれ、女子は服装と身体の関係の強さ、自己表現との関わり方があらわれているところに特徴がある。

習慣的に運動をして、身体に刺激を与え続けている人は、体型に対する満足度が高くあらわれた。運動などを積極的、継続的に続けることは、健康面、肉体面だけでなく、精神的にも充実し、快適な着装行動を助け、積極的な衣生活を送ることにつながると考えられる。より豊かで、楽しい衣生活を送るために、衣服や身体への表面的な関心だけでなく、内面的な関心、つまり、自らの身体への前向きな働きかけにより自己を確立し、正しい身体意識を持つことが必要である。

終わりに、本調査にご協力下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 鷺田清一 NHK 人間大学1997. 10~12・人はなぜ服を着るのか NHK 出版 21~22 (1997)
- 2) 千村典生 ファッションの美学<34> 衣生活 Vol. 37 No.1 25 (1994)
- 3) 千村典生 ファッションの美学<39> 衣生活 Vol. 37 No.6 69 (1994)
- 4) 中野広 女性の服装美と体型 繊維製品消費学会誌 Vol. 27 No.8 21 (1986)
- 5) ユン・チアン ワイルド・スワン 講談社 20~21 (1993)
- 6) 鷺田清一 顕わすボディ/隠すボディ モードの狡智 ポーラ文化研究所 21 (1993)
- 7) 足立吉丈朗 「着る発想」の大転換ーボディからファッションを発想する 衣生活研究 5 Vol. 18 No.2 55 (1991)
- 8) 前掲書7) 53
- 9) non. no 集英社 232 (1999)
- 10) 大矢愛美 中川早苗 女子学生の身体に対する意識と着装行動との関連について 繊維製品消費学会誌 Vol. 30 No. 11 576 (1989)
- 11) 1996年11月4日付け朝日新聞 年々やせる20歳の女性(厚生省の調査データをもとに計算した体格指数 BMI によるもの)
- 12) 前掲書7) 53
- 13) 前掲書1) 7
- 14) 篠崎彰大 女性の美しさーワコールの提唱する美の基準「ゴールデンカノン」について 繊維製品消費学会誌 Vol. 39 No.8 36 (1998), 前掲書11) 厚生省調査データ等による
- 15) 鮎田崎子 宮崎陽子 若者の着装意識と生活意識の関連ー男子・女子大学生の場合ー 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第46巻 第2号 149~167 (2000)
- 16) 鮎田崎子 山下奈美恵 若林美佐 人体計測値による体型・体格の研究(5) ー青年期(18歳~24歳)の特徴ー 愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第45巻 第2号 165~189 (1999)